

第 8 回 防災ボランティア活動検討会

資料 2 平時における活動の共有について

- ・ 安全衛生に関する活動
- ・ 広域連携に関する活動

平成 2 0 年 1 2 月 1 9 日

防災ボランティア活動検討会 事務局

安全衛生に関する活動

資料2 平時における活動の共有について
・安全衛生に関する活動

クロスロードを楽しもう

ボランティア安全衛生研究会
2008年10月12日Ver0.9

「クロスロード」(市民編)

- あなたは...母親
- 大地震後、小学校へ行っている我が子を迎えに行くが、途中で人が生き埋めになっているのを発見。他に人はいない。しかし、わが子も気になる。
- まず、目の前の人を助ける？

YES (助ける) ↔ NO (わが子優先)

「クロスロード」 自分ではない誰かの立場で考えてみる

設定されていない状況は自分で想定する 母親

- 大地震後、小学校へ行っている我が子を迎えに行くが、途中で人が生き埋めになっているのを発見。他に人はいない。しかし、わが子も気になる。
- まず、目の前の人を助ける？

みんなの意見を推理し、多数派(青座布団)か、単独意見(金座布団)を狙う

YES (助ける) ↔ NO (わが子優先)

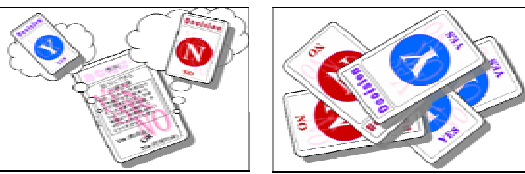
「クロスロード」とは

- 阪神・淡路大震災のときの「実話」がもとになった教材
- 文科省の研究プロジェクト」の成果物
(登録商標・2004-83439)

「クロスロード(CROSSROAD)」: 重大な分かれ道、人生の岐路
人と人が出会う場所、活動場所

クロスロードの基本ルール

みんなの意見を推理し、多数派(青座布団)か、単独意見(金座布団)を狙って座布団を集める



五人一組が基本 二人ペアでもOK
奇数になるように組み分けをしよう

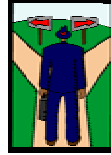
「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-1

- あなたは...ボランティアセンターのスタッフ
- 68歳の男性からボランティアの申し出。「血圧が少し高いが大丈夫」という。室内でもかなり寒い。
- 活動してもらおう？

YES (活動してもらおう) ↔ NO (活動を断る)

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-2

- あなたは... ボランティア
- オリエンテーションで現場リーダーに指名された。同じグループに酒臭い中年男性がいる。
- 一緒にグループで連れて行く？



YES
(連れて行く)



NO
(連れて行かない)

クロスノート (なぜyes? なぜno?)

---YES/NOの問題点を整理---

YES(連れて行く)の問題点

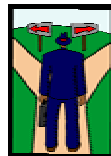
- ・被災者からボラセンに対する不信感を持たせる
- ・一緒に活動するボランティアに迷惑がかかる

NO(連れて行かない)の問題点

- ・本人の意欲を削ぐ
- ・中年男性と一緒に来たボランティア仲間の意欲が低下する
- ・マッチングさせたセンターから嫌がられる
- ・リーダーとしての資質を問われる

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-3

- あなたは... ボランティアセンターのイベント担当
- 避難所の体育館で、有名演歌歌手のイベントを企画した。被災地では風邪がはやり始めたが、住民は楽しみにしている。
- 予定どおりに実施する？



YES
(実施する)



NO
(実施しない)

クロスノート (なぜyes? なぜno?)

---YES/NOの問題点を整理---

YES(予定通り実施する)の問題点

- ・風邪の感染が拡大する恐れがある
- ・ボラセンの責任問題になる
- ・避難所に迷惑がかかる

NO(中止する)の問題点

- ・余計な心配を与える
- ・楽しみにしていた住民ががっかりする。
- ・イベントに関わったVのモチベーションが下がる
- ・経費がむだになる
- ・イベントを通じて(公衆衛生も含めた)広報する機会を失う

クロスチャート

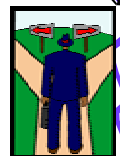
---判断のポイントを列挙---

- ・関係機関から適切に状況を把握する
- ・保健所や避難所の責任者と相談して合意する

備えの仕方の例
いざというときのために関係機関との連絡網を作っておく
保健所や福祉関係者とミーティングの場を設定しておく
ノロウイルスの感染予防について勉強しておく(ノロは、通常の消毒用アルコールが効かない、など)
住民やボランティアに、過剰な反応の防止も含め、適切な予防・対応策などについて広報をしていく

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-4

- あなたは... ボランティアセンターのコーディネーター
- センター開設2日目。「活動の様子を写真に撮りたい」とスタッフが申し出てきた。
- 撮影させる？



YES
(撮影させる)



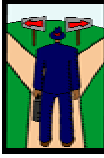
NO
(実施しない)

クロスノート ---YES/NOの問題点を整理---	
YES(写真を撮らせる)の問題点 ・本部機能が滞る ・他のスタッフのモラル低下 ・一般ボランティアに誤解が生じる ・被災者からの誤解を招く	NO(撮らせない)の問題点 ・記録が残らない ・検証ができない ・業務の改善ができない ・安全管理が難しくなる ・一般Vから提供写真を使う場合は、Vセンとの視点が異なる。 ・著作権、肖像権の問題 ・的確な情報提供が難しくなる(HPでの発信など)

クロスチャート ---判断のポイントを列挙---
・撮影の目的が誤解無く明確に伝えられるかどうか
備えの仕方の例 記録という人の立場を、組織的に明確にし、外部からも分かるようにする(腕章、ビブスに「記録」と明記=手書きではなく、きちんと。IDカードなども欲しい) 被災者にも、記録を残すことの重要性を理解してもらえらる仕組みを作る。(工事現場の事前、事後の撮影のような手法) ホームページやセンター、被災者への広報(ニーズ調査票など)で、記録の必要性を周知する 撮影の仕方についてのガイドラインのようなものを作っておく

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-5	
□あなたは あなたは女子高校の先生 □授業の一環で、被災地にボランティアに行くことになった。集合場所にスカート姿で来た生徒がいる。 □バスに乗せる?	
YES (乗せる)	NO (乗せない)

クロスノート(なぜyes? なぜno?) ---YES/NOの問題点を整理---	
YES(連れて行く)の問題点 ・活動に相應しい服装ではない ・活動の内容が限られるため、生徒間の不公平感が出る ・思わぬけがをすることもある ・現場に対する想像力が働かない生徒が、他の事故などを起こす可能性もある ・意識がある他の生徒たちのモラルが低下する	NO(連れて行かない)の問題点 ・その服装でできる仕事もある ・生徒のやる気をむだにする ・体験・学習の機会が得られない ・学校側の徹底不足を生徒の責任にすることになる ・保護者から苦情が来る ・単位を付与するかどうか困る

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-6	
□あなたは あなたは避難所炊き出し班長 □昼食で蕎麦の準備中。新聞紙にくるんだ大量の山菜が差し入れられた。 □使う?	
YES (使う)	NO (使わない)

クロスノート(なぜyes? なぜno?) ---YES/NOの問題点を整理---	
YES(使う)の問題点 ・食中毒の恐れがある	NO(食べない)の問題点 ・善意をむだにする

「クロスロード」(災害ボランティア安全編) -7

- あなたは . . . ボランティアセンターのコーディネーター
- 避難所から余ったお弁当がボランティアセンターに届いた。



□希望者に配る？

YES
(配る)



NO
(配らない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES(配る)の問題点

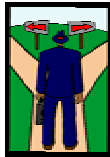
- ・食中毒の恐れがある。
- ・被災者向けの食事をボランティアが横取りしていると見られる。

NO(配らない)の問題点

- ・食べ物をむだにしてもったいない。
- ・好意を無にする。
- ・ボランティアが尊大に見られる。
- ・ゴミを増やす。

「クロスロード」(災害ボランティア安全編) -8

- あなたは . . . 避難所支援のボランティアリーダー
- 午後4時にセンターに戻るのがルール。自治会長から夕食の手伝いを頼まれた。
- センターに戻った後、また行く？



YES
(また行く)



NO
(行かない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES(行く)の問題点

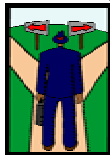
- ・ボラセンの管理が行き届かない。
- ・特定の避難所だけ、勝手にやっていると批判される。
- ・手伝いすぎると被災者自身の生活再建に向けた機会を減らすことになる。

NO(行かない)の問題点

- ・住民のニーズにこたえられない
- ・町内会役員らの負担が軽減されない

「クロスロード」(災害ボランティア安全編) -9

- あなたは . . . ボランティア
- 現場に行くものすごいホコリ。前日もこの状況で活動していたという。
- 予定どおりに作業をする？



YES
(作業する)



NO
(作業しない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES()の問題点

NO()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-10

□あなたは ボランティア

□玄関前の雪かきを頼まれたが、仲間が高齢の住民を手伝おうと屋根に上ろうとしている。

□そのまま仲間を上げさせる？



YES
(上げる)



NO
(止める)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES ()の問題点

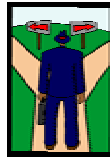
NO ()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-11

□あなたは あなたは被災者

□真夏の未明に地震。ライフラインが途絶えたまま夕方になり、魚屋が「もったいない」と刺身を配り始めた。

□刺身をもらう？



YES
(もらう)



NO
(もらわない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES ()の問題点

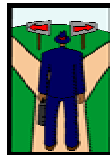
NO ()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-12

□あなたは ボランティア

□「簡単な作業」と言われて軽装で行ったら、住民から「先に泥だしをしてくれ」と頼まれた。

□予定外の泥出し作業をする？



YES
(泥だしをする)



NO
(泥出しをしない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES ()の問題点

NO ()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-13

□あなたは ボランティア

□粗大ごみの片付けに行ったら、ゴミ収集車にも積み込む作業をしている人がいた。

□手伝う？



YES
(手伝う)



NO
(手伝わない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES ()の問題点

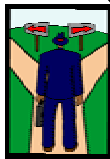
NO ()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-14

□あなたは ボランティア

□ボランティアセンターで待機中、家具運び出しの募集。力仕事の自信はない。これを逃したら、もう仕事はないかもしれない。

□応募する？



YES
(応募する)



NO
(応募しない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES ()の問題点

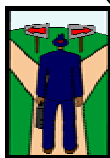
NO ()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-15

□あなたは 大学生

□恋人と海へきている。ゆっくりとしたゆれを感じた。恋人は50m先で泳いでいる。

□知らせに行く？



YES
(知らせに行く)



NO
(行かない)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES ()の問題点

NO ()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-16

- あなたは．．．ボランティアセンターのスタッフ
- センター開設3日目。現場に行きたいというスタッフがいる。センターは目の回る忙しさ。
- それでも現場に行かせる？



YES
(行かせる)



NO
(行かせない)

クロスノート

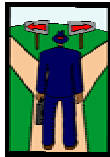
---YES/NOの問題点を整理---

YES()の問題点

NO()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-17

- あなたは．．．ボランティアセンターのコーディネーター
- 資器材をもったボランティアグループが一般ボランティアには出来ない仕事もできると言ってきた。
- 受け入れる？



YES
(受け入れる)



NO
(受け入れない)

クロスノート

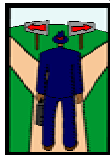
---YES/NOの問題点を整理---

YES()の問題点

NO()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-18

- あなたは．．．ボランティアセンターのコーディネーター
- 現地では、雨は降っていないが、大雨注意報が発令された。
- ボランティア作業を続ける？



YES
(続ける)



NO
(中止する)

クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES()の問題点

NO()の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-19

□あなたは ボランティア

□ニーズがないのでボラセンで待機中、見知らぬボランティアから「こっちに仕事がある」と誘われた。

□ボラセン以外の仕事をする？

YES
(仕事をする)



NO
(しない)



クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES () の問題点

NO () の問題点

「クロスロード」(災害ボランティア安全編)-20

□あなたは ボランティア

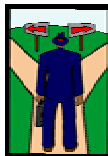
□活動中、強い余震。被災者から「あと少しだから終わらせてほしい」と言われた。

□活動を続ける？

YES
(続ける)



NO
(続けない)



クロスノート

---YES/NOの問題点を整理---

YES () の問題点

NO () の問題点

クロスロード記入シート

設問	選択	理由
1	Yes / No	
2	Yes / No	
3	Yes / No	
4	Yes / No	
5	Yes / No	
6	Yes / No	
7	Yes / No	
8	Yes / No	
9	Yes / No	
10	Yes / No	
11	Yes / No	
12	Yes / No	
13	Yes / No	
14	Yes / No	
15	Yes / No	
16	Yes / No	
17	Yes / No	
18	Yes / No	
19	Yes / No	
20	Yes / No	
所属：		氏名：

クロスロード災害ボランティア安全編実施報告

安全衛生部会メンバー
財団法人市民防災研究所
研 究 員 伊 藤 英 司

実施日：2008年11月15日（土）

対 象：災害ボランティアぐんま主催の災害ボランティアリーダー養成講座参加者20人
（2/3は災害ボランティア経験者）

災害ボランティアには、「災害ボランティアぐんま」として団体参加している。

【準備】

- ・赤の画用紙で作成した No カード：参加者分
- ・青の画用紙で作成した Yes カード：参加者分
- ・A3用紙のクロスノート：グループ×課題
- ・飴玉：必要分

【進め方】

（１）クロスロードの説明、進め方の説明（10分）

プロジェクターで映した課題を全員で一斉に Yes/No の意思表示してもらい、その後、5人組のグループごとになぜ Yes/No の選択をしたのかを一人ずつ話してもらい、次に Yes/No を選択したけどもその問題点をグループ討議してクロスノートに記入してもらい、座布団の代わりに飴玉を使用した。

（２）課題を実施（72分）

- ・課題を読み上げ（1分）
- ・Yes/No の意思決定（1分）
- ・グループ討議（10分）
- ・グループ発表（3分）
- ・解説（3分）

（３）振り返り（8分）

災害ボランティアの安全について講義をし、最後に安全衛生プチガイドを紹介。

【課題】

課題は4問実施。課題2～4の3問は安全衛生部会で作成した災害ボランティア安全編を活用させていただいたが、実施する前に吉川先生と意見交換をした際に悩みがないと言っておられたので、私なりに文を追加して実施した。（課題文の下線部が追加文）

各課題に対する意見や問題点は次の通りです。

● 課題 1 (市民編 5010)

あなたは...市民

今、大地震の被災地で、救援活動のためのボランティア保険の費用 (7 7 0 円) を、被災地の自治体が払うのか、ボランティア本人が払うのかで、もめている。

自治体負担の意見に賛成する？

Y e s : N o = 1 0 : 1 0

【 Y e s (自治体負担) の問題点 】

- ・被災の上の自治体への負担増
- Y e s を選択した理由
- ・公共の問題 (災害) が起きたとき、参加するのだから役所で
- ・まとめて保険の費用は払ってもらった方がいいのではないかと思う
- ・自治体で準備しておくべき (予算でとっておく)
- ・費用は自治体、活動で貢献してもらうべき
- ・ボランティア活動を行いやすくする

【 N o (ボランティア負担) の問題点 】

- ・被保険者でないと活動できない？
- ・保険加入者で限定すると人が集まらない
- ・金額の問題
- ・金銭授受に時間がかかる
- ・未就業者には負担となる (学生など...)
- ・保険費用が巨額になった場合に本人負担が大きくなると困る
- N o を選択した理由
- ・参加者の意思に期待すべき

【 その他意見 】

- ・被災地では処理が大変、出発前に入って欲しい

●課題2（災害ボランティア安全編）

あなたは...災害ボランティア

活動中、強い地震。あと少しで活動が終わりそうだが、ボランティアセンターから活動中止の連絡。被災者から「あと少しだから終わらせて欲しい」と言われた。

活動を続ける？

Y e s : N o = 6 : 1 4

【Y e s（活動継続）の問題点】

- ・組織の一員であり、本部の命令に従うべき
- ・二次被害防止
- Y e s を選択した理由
- ・被災者への不安・負担が増える
- ・自己責任
- ・仕事の終わりが見えている
- ・20 - 30分位なら続ける
- ・最後までやるがバスの時間等、みんなに合わせる（団体として参加）
- ・頼まれごとは最後までやる（個人的には）
- ・現場で判断すべきこともある

【N o（活動中止）の問題点】

- ・被災者との信頼関係
- ・線を引くところ
- ・ボランティアの達成感、責任感
- ・「あと少し」が問題だが、現場判断でできるのではないか
- ・「クレーム」の発生
- ・被災者のニーズに応えるべき
- N o を選択した理由
- ・ボランティアセンターの指示に従う
- ・心情的にはやりたい
- ・被災者の避難も促す
- ・組織の一員として従わないことの二次被害
- ・自分の身の安全

【その他意見】

- ・「少し」が問題、帰着時間に間に合うのであれば、継続してもよいのでは
- ・被災者の理解が必要でやめるべき

●課題3（災害ボランティア安全編）

あなたは...現場リーダー

オリエンテーションの最中、同じグループに

顔色の悪い若者がいる。具合が悪いかどうか尋ねたら、「大丈夫だ」という返事。

一緒に連れていく？

「大丈夫」を、具合が悪いけど「大丈夫」と具合が悪くないから「大丈夫」という2つに分かれた解釈をしている。

Y e s : N o = 6 : 1 4

【Y e s（連れて行く）の問題点】

- ・（連れていった先で具合が悪くなるなど）リスクを背負う
- Y e s を選択した理由
- ・対象者の努力してきた感じを感じ、合意したうえで同行させる
- ・グループで行って1人でおくわけにはいかない
- ・途中で具合が悪くなくてもグループからはずさない
- ・本人の意思を大切に
- ・それほど大変な現場はない
- ・やる気をそいでしまう

【N o（連れて行かない）の問題点】

- ・やる気をそぐ
- ・欠員補充が必要、仕事が増える
- ・リーダーが2人分働く
- ・ボランティアの活動の気力をそいでしまう
- N o を選択した理由
- ・医者がいない、回復後に同行させる
- ・（具合が悪くなくても）対処ができない
- ・被災地に余計な負担がかかる
- ・労力の減少（同行した結果、重くなった場合に同行者が必要となる）
- ・連れて行って迷惑かけないように
- ・連れていくと、面倒をみるために人手が足りなくなる
- ・気持ちはわかるが、二次被害
- ・行った際に迷惑かける

【その他意見】

- ・他の仕事をしてもらう

● 課題 4 (災害ボランティア安全編)

あなたは...災害ボランティア

粗大ごみの片付けに行ったら、ゴミ収集車に積み込む作業をしている人がいた。

「手伝って」と言われたが手伝う？

ボランティアセンターから言われた仕事以外の業務と解釈している人が多かった。

Y e s : N o = 1 1 : 9

【 Y e s (手伝う) の問題点】

- ・ 本来の業務時間が減る
- ・ 危険が伴う
- Y e s を選択した理由
- ・ 体力があり、早く片付けてやりたい
- ・ コミュニケーションの一環、顔見知りになる
- ・ 片付けの一環
- ・ 声がかかったら手伝う

【 N o (手伝わない) の問題点】

- ・ ゴミが片付かないと粗大ゴミが片付かない
- ・ 道路が広くならない
- ・ 問題はない
- ・ (水害の場合) 周辺の道路の悪臭が残る
- N o を選択した理由
- ・ (今やっている仕事の) 力が足りないと思われるから、断る。
- ・ センターの仕事を優先してやるのが筋であると思う
- ・ ごみ収集車の作業は非常に危険

技術系災害ボランティアによるネットワーク！

～ 災害ボランティアの精鋭化・高度化・機械化を目指して～

30年前に発生した宮城県沖地震。全壊家屋が1,377棟、非住家棟を含めると176,113棟でした。そして27名の犠牲者の内、16名がブロック塀や石塀などで亡くなっています。すべてのライフラインが止まり、都市の持つ災害に対する脆弱さを浮き彫りにした地震でもありました。

そして記憶に新しい2007年の能登半島地震や中越沖地震においても沢山のブロック塀の倒壊があり、その処理の多くは住民相互によって、或いはボランティアの「人海戦術と人力作業」等によって行われたところも少なくありませんでした。しかし、作業の効率性・安全性を考えた場合、動力機械による作業の必要性も強く感じるところです。このような大規模災害に備え、チェーンソーやパワーカッターなどの動力機械を使った、一歩進んだ専門性を兼ね備えたボランティアの育成も必要ではないかと考えます。

また、水害でのボランティア活動は重機などの機械力と人海戦術を取り混ぜた効率的な活動が、災天下でのボランティア活動において安全面・健康面からも、とても重要であると認識されています。

阪神・淡路大震災以降、災害ボランティアセンターとしての機能充実のためのコーディネーターの養成は社協を中心に、多くの市民団体によっても数多く行われてきましたが、ボランティアが実際に活動するいわゆる被災現場での「活動にてアドバイスを行うコーディネーターの養成は全くといってよいほど行われておらず、その作業の非効率性なども指摘されています。私たちはそのような背景を受け、災害ボランティアのレベルアップを目的として、動力機械等を使った講習会を実施し、その養成を行ってきております。

しかし、このような動力機械（エンジン・モーターなどによるパワーツール）の使用にはより危険が伴います。私たちはこのような機材を災害現場で活用できるボランティアの安全性を第一に考え養成し、その精鋭化・機械化・高度化を目指したいと考えております。これらの講習会は資格の取得や認定を目的としたものではなく、あくまで動力機材の操作等を体験・学習することにより、その技術力や効率性を再認識し、それぞれの団体・個人の知識を深め、専門性を兼ね備えたボランティアによる、より高度な「現場での」コーディネーターの養成と併せて、発災直後の自助・共助での時間帯による救援活動の一助となることも目指しております。

このネットワークは特別に組織化された団体ではなく、災害発生と同時に同じ志をもった団体・有志によって現地に拠点を確保し、災害ボランティアセンターと協調・協働しあいながら行動することを旨とする、緩やかなネットワークです。過去の例が示すとおり、大規模災害時に消防・自衛隊・警察等、公助によって人命救出がなされる確率は5%以下となっています。

私たちは2004年のの中越地震において、小学生だけが3名お亡くなりになった小千谷市の小さな集落の皆様と救援活動を通じてお知り合いになりました。真っ暗闇の中で村人たちによる懸命な救援活動がなされました。亡くなられた子どもたちの家の中からは、村人たちが持ち寄った沢山のジャッキや道具を見ることができました。そんな悲しい事が二度と起こらないように、この活動を推進していけたらと思っています。

講習内容：

- ・ 小型重機（救援・救出・水害処理ほか）
- ・ チェーンソー（救援・救出・流木処理・二次災害の防止・水害時の床はがし）
- ・ エンジンカッター（ブロック・石塀等の処理）
- ・ エンジンピック（ブロック・コンクリート等の破碎）
- ・ ジャッキ（救援・救出）
- ・ スプレッダー（救援・救出）
- ・ 牽引機材（救援・救出・二次災害防止策）
- ・ 土嚢袋の活用（地震・水害）
- ・ 足湯隊

技術系災害ボランティアネットワーク（代表世話人：黒澤司）

広域連携に関する活動

2008/02/26-10:20

【ベストプラクティス】災ボラ東海図上訓練 / 3 - 1 ロールプレイ型から課題発掘型に(上)

中川和之 防災リスクマネジメントWeb編集長

東海地震を想定した静岡県内外の災害ボランティアらによる図上訓練が、23, 24の両日、静岡市葵区の市民文化会館で行われました。県内各地で災害時のボランティア活動に備えているボランティア団体や社協職員、支援の静岡県職員ら地元約180人に加え、北海道から九州までの各地の団体から約70人の計約250人と、参加者は昨年を4割も上回りました。3回目となる今年は、役割を演じるロールプレイ型の訓練から、各地にボランティアセンターを開設するにあたっての課題を再確認することを目的に実施されました。



初日は、静岡県の東海地震第3次被害想定をもとに、地域の被害を学ぶプログラムが行われました。各市区町単位で分かれたテーブルごとに、資料に基づいて想定震度が7や6強のエリアの割合、想定死者や死亡率、建物の倒壊率などをワークシートに書き込みました。県外からの参加者も、各テーブルに入り、地元参加者から地域特性などを教わりながら、改めて甚大な被害となることを再確認。用意された2500分の1の地図上のビニールシートに、想定される被害エリアを書き込み、それぞれの地域でどんな被災状況が生じるか具体的に付せん紙に書き出してまとめました。

東海地震がもたらす破壊のすさまじさを改めて確認できるよう、別室には大きな地図上に示された東海地震の被災地域と、兵庫県南部地震の震度7の領域の地図が用意され、休憩時間にはその地図の前で思わず腕組みをして考え込むボランティアの姿も見られました。



徹底的に被害像を認識する課題に取り組んだ後、被災者に対してはどういう支援が必要になるか、72時間、1週間、1カ月、3カ月、3カ月以降という時間経過と、その時点での被災者ニーズ、ボランティアを仕掛ける側に求められる役割や課題などということを書き込むワークシートを完成させます。その際に、テーブルごとに全員が災害時の被災者支援についての個人的な思いを1分スピーチをし、資料にある阪神大震災の教訓情報資料集から抜粋したボランティア活動についての資料を読んだうえで個人作業を行い、最後はテーブルごとに付せん紙で模造紙にまとめました。

できあがった地図と、具体的な被害や、時間経過と被災者支援をまとめた模造紙をもとに、各テーブルで互いに再確認を行って、初日は終了しました。

ボランティアの広域訓練をどのように行ったらいいか、手探りで始めたこの図上訓練ですが、初年度は参加者の理解度を考えずにロールプレイ型で状況付与をする訓練を1日かけて行い、参加者は何をしたのか分からないまま、「大変だ」という思いだけが残りました。その反省をもとに、昨年は最初に被害想定の特訓を受けてから、ロールプレイ型の訓練を行ったのですが、特訓だけでは参加者の意識がそろわず、やはりロールプレイ訓練が宙に浮いた形になってしまいました。そのため、今年は課題を理解することに焦点を置きました。初日は、ボランティアセンターをどう開設するかまでは踏み込まず、その前提になる課題を参加者全員で、地域ごとに整理をする作業を行いました。

昨年は全国からの支援ボランティアは地元とは別テーブルで取り組んだのですが、今年は地域に入って被害状況を共有したことで、外部支援の難しさを改めて理解できたと思います。

全体のコーディネートは、DIGの生みの親でもある富士常葉大の小村隆史准教授が行い、私は「遊軍」としてサポートしました。初日のプログラムに、参加者が主体的に取り組んでいる様子を見ながら、訓練の成功を確信しあいました。(続)

2008/02/27-10:50

【ベストプラクティス】災ボラ東海図上訓練 / 3 - 1 ロールプレイ型から課題発掘型に(下)

中川和之 防災リスクマネジメントWeb編集長

2日目は、いよいよボランティアセンターの立ち上げ訓練です。ここでも時間経過でロールプレイをするのではなく、前日に作ったそれぞれの地域の被害想定をもとに、3日と1週間後に市町単位でセンターが立ち上げられるかどうか検証していきます。県外からの70人は別室に行き、東日本と西日本に分かれて外部からの支援の方策を検討。静岡県社会福祉協議会や、県ボランティア協会のメンバーらは、県災害ボランティア支援センターの立ち上げなどについて、検証します。テーブルごとに与えられた状況は異なるため、23の検討会議が同時並行で行われ、時折、全体の進行課題が課せられるという進め方でした。



私自身は、主に県外の部屋にしながら、県内19のテーブルにわかれた主会場にいる小村さんと連絡役をやっていたため、被災地側の詳細な進行状況は見えていないのですが、前日に想定した被害状況を再確認した後、救出活動の進行状況などをイメージ。市区町ごとに、ボランティアセンターの立ち上げに必要な条件を書き込むワークシートを埋めていきました。

そこには、72時間後の時点と1週間後で、センター立ち上げの可能性をA - Dで評価するとともに、被災規模を前提にしてボラセンの具体的な設置場所、ボラセン代表者と事務局長、総務担当などの候補名を具体的に記入しました。主要なメンバーが3人集まった段階で、センターが立ち上げられるという前提で検討したところ、72時間後の段階で何とか立ち上がっているところが大半でしたが、浜松市の中心部などでは困難という検証結果となりました。さらに、センターが機能を発揮して1日10件以上の活動調整を行えるようになるのはいつごろからかということも検討しました。

さらに、自分たちの地域と周辺との交通手段がどうなっているか、外部からの支援が受けられるかや、より被害がひどい周囲市町まで支援できるかを検討しました。



各地のベテランも参加した県外グループは、当初は東西に分かれたのですが、途中から現地入りの調整などを行う東西グループとは別の、全国的な情報連絡などを行う全国グループに分かれて行いました。それでも約70人で3卓ですので、団体ごとに東海地震支援にどう備えていて、3日目の段階で何ができるかの状況をシェアするだけで、あっという間に時間がたっていきました。

名古屋に結集したという想定 of 西日本グループは、昨年の訓練後に西からのルートなどを具体的に検討してきたため、飯田や豊橋に前線基地を置くなどの議論が進みました。西日本側からのメンバーも参加した全国と東日本は、いずれも東京・

霞が関の全国社会福祉協議会の会議室に集まったという想定で議論を開始。現地の状況を把握するために、静岡市で立ち上がることになっている静岡県のボランティア本部・情報センターに、まずリエゾンと言われる連絡要員数人を派遣する必要があるとして、内閣府を通じてヘリでの移送を要請することが必要などという議論が進みました。一方で、全国の主要なボランティアが集まってきたことが分かった段階で、取材は必至であり、マスコミ対応も念頭に置いて、積極的な情報発信や省庁や経済団体、労組などさまざまな関係先との連絡調整も、全国的な場の役割になるということも議論されました。

東日本グループは、神奈川と山梨経由で現地に入ることを想定し、両県とも被災地を抱えるため、それぞれ地元でできるボランティアセンターが、静岡県内に向かうボランティアのベースキャンプにもなる宿場町方式が検討されました。

今回の訓練では、市町のボラセンを広域で支援する「地域災害ボランティア支援センター」の立ち上げが可能か、その必要性があるかの検証が、課題となっていました。昨年のロールプレイ型訓練では、とても支援センターの立ち上げまでは考えられないという意見が相次いだためです。支援センターは、災害時の予算措置もされており、場所も想定された机上の計画がありますが、今年はその見直しも視野に入れて

取り組みました。

具体的には、「あなたの市町から、支援センター設置予定場所(熱海、下田、沼津、富士、静岡、藤枝、磐田、浜松)との陸路での交通路・交通手段は確保できそうか?、支援センターのスタッフ派遣は可能か、固有名詞は誰か」という課題が、被災地内の各テーブルに与えられました。一部の地域では支援センターの立ち上げまで想定できましたが、大半は具体的な検討までは至りませんでした。県本部では、72時間以内には5人程度しか集まれず、各地への支援以前に情報収集ですら困難な状況が再確認されました。一方、被災地外からの連絡役としてのリエゾン派遣を、県内数カ所の支援センターまでは早急に行うことも可能ではという議論も、全国グループでは検討されました。

昼食後は、テーブルごとに「ふりかえり」を行い、今後の具体的な検討課題とそのために必要な情報を整理すると共に、多様な組織・団体などとの連携調整を検討するために「ラブレターを送るべき相手とメッセージ」を、付せん紙に書き込んで模造紙にまとめました。

最後に、賀茂(伊豆)、東部、中部、西部の4地域から1団体ずつと県本部、東西、全国の各テーブルから、ふりかえりについての発表をして、今後の課題を共有し、2日間の日程を終えました。

今回の訓練では、段階ごとに個人作業で書いてもらったワークシートや、まとめの模造紙などに、具体的な課題と多様な解決策が記されており、今後、小村さんらを中心にこれらの分析が行われます。一方で、地元団体を中心にグループが分かれたため、各地で今後の課題を取り組むことも可能になります。昨年の訓練後、全国の調整をどうするか具体的な検討の必要性はその場で議論されてとどまっていたが、今回はもう一歩進める気運も出てきています。

この訓練は、静岡県労働金庫の支援で、来年度以降も少なくとも3年間は継続できることになりました。訓練自体の経費だけでなく、県内外からの参加者の交通費や宿泊費支援を継続的に行うめどが付いたわけです。今回の課題になった支援センターの今後については、具体的議論はこれからになるでしょうが、個人的には各市町も県本部も混乱する中で、1週間後以降でもいいので、中間的な地域支援センターは必要だという印象を持ちました。これまで同様、かかわった関係者に、それぞれの立場から連載で報告をしてもらいます。(了)

写真1:地図を見ながら、被災地にどう支援するかを議論する県外チーム

写真2:今後の課題をまとめる被災地側のテーブル

[災ボラ東海図上訓練 / 3 - 1 ロールプレイ型から課題発掘型に\(上\)](#)

[>>【災ボラ東海図上訓練】連載一覧](#)

(C)時事通信社

閉じる

今日の課題

私たちは東海地震でどう被災するか

私たちの地元でどんな支援が必要になるか

私たちは、静岡をどう支援できるか。
全国のつなぎ役を果たせるか？

今日の訓練の特徴(留意事項)

- いわゆる図上訓練やロールプレイではありません！
－被災イメージや行政・ボランティアの役割・役割分担のイメージが十分でもないのに、「〇〇という状況です。どうしますか？」を語ることにどんな意味があるのですか？
- 何が課題なのかを「洗い出し」「見える化」「共有化する」ことを目標とするワークショップです。
－答え(対応案)は求めません！課題そのものと、その課題を具体的に検討するために必要な情報について、考えていただきたいと思います。
- 地図はイメージの共有のために使うだけです
－横浜市の死者想定＝神奈川県50人、横浜市19人正確さはあまり問いませんが、相場観は持ちましょう。
- グループ内で、市区町単位での小グループを作り、同時並行で課題に取り組んでいただくことがあります。司会と書記は、必ず交替して下さい。

とはいえ、まずは地図。15分間で色ペンで、手分けして地図を塗ろう

- 主要道路 路肩を茶(太)。静岡方面に行く道路はどこ？ 主要な橋も分かるように
- 新幹線、在来線・私鉄、東名他高速道路・自動車専用道路も色を塗ろう
- 河川 堤防部分を青(太) 沼・池 周囲を青(太) 海岸線 青(太)。津波の恐れがある地域は、青の細い線で斜線を。
- 倒壊家屋多発地域 紫(細)で範囲を囲み、斜線を入れて下さい。東海地震の想定です。
- 10階以上の高層建物 建っているエリアを黄(細)で囲んでください。
- 避難場所・オープンスペース 周囲を緑(太)。広域支援拠点は？
- 都市大火の危険性があれば 赤(細)で範囲を囲み斜線を入れて下さい。想定は東海地震です。

市(町)の被災イメージ

(最大震度〇 死者〇〇 重傷者〇〇 建物全壊〇〇棟 避難所避難者〇〇)

あなたの(ご縁のあった)まちで 起こり得る被害を描き出してみして下さい

- 地図をよく見た上で、地震発生から72時間後のこのまちの姿をイメージしてみして下さい
- まずは個人作業
－想像力を膨らませて手元のシートに描き出してみして下さい
- 次にグループ作業
－書記役と進行役を決めて下さい。グループ毎(＝市町毎)で読み合わせ、その発言(被害のイメージ)をきっかけとしてさらに議論を交し、被害のイメージをより具体化して行って下さい。
- 最後は模造紙に同じ枠を書いてまとめて下さい
－皆さんが描き出した被災イメージを言葉で表現し、書記役がポストイットに書き出して模造紙にはって下さい

数字を転記してから、まず個人作業 そしてグループでまとめ＝12時15分まで

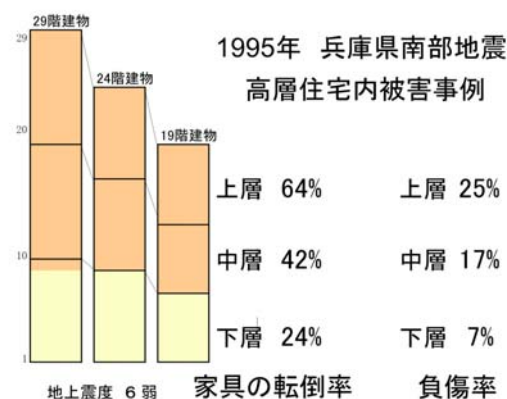
〇〇市(町)の被災イメージ

(最大震度〇 死者〇〇 重傷者〇〇 建物全壊〇〇棟 避難所避難者〇〇)

超高層建物振動実験(30F・最上階)



本機 洋服ダンス ピアノ 「長周期地震動による超高層建物の家具・外壁への影響」 清水建設技術研究所提供資料に加筆



清水建設技術研究所提供資料に加筆

2005年 福岡県西方沖の地震の被害

14～20階建て



地上:震度5強

清水建設技術研究所 提供

家具の転倒



壁の損傷



午前のおさらい

- 各グループごとに、各地域の被災状況報告をお願いします。
- 1グループ2分まで。ポイントはどこ？

震度の違いと対応の原則(試案)

あなたの市町はどれに当てはまりますか？

震度	対応の原則
震度7 震度6強	SOSの声を上げよう！受け皿づくりを考えよう！もちろんやれることはやるけれど。 (外部から、すぐに、十分な数のボランティアが来てくれるとは期待できないけれど……。)
震度6弱	自分の地域は自分で何とかしよう。 (最初のうちは、外部からの救援は、震度7・震度6強の地域にまわってもらおう。私たちの地域に来てもらっては申し訳ない。)
震度5強以下	助けに行こう！ (私のまちは何とかできる！というよりも大きな被害は出ていない(はず)。高いビルがなければの話だけれど……。5階上ると震度が一つ上がるイメージ。)

午前のおさらい

- 各グループごとに、各地域の被災状況報告をお願いします。
- 1グループ2分まで。ポイントはどこ？
- 時系列の課題洗い出しを1時間で

(可能な限り具体的に)ワークシートに
イメージをまとめて下さい

	72時間	1週間	1か月	3か月	3か月以降
被害イメージ	—	—	—	—	—
復旧・復興活動のイメージ					
被災者のニーズ(=期待される役割)					
ボランティアを「仕掛ける」側に求められる役割(例:市町社協等)					
考えられる課題/その他					

あなたの(ご縁があった)まちでの
ボランティア活動を描き出してみして下さい

- まずは個人作業を15分で
 - 想像力を膨らませて、まずは可能な限りワークシートを埋めてみて下さい
- 次にグループ作業で30分
 - グループ毎(=市町毎)で読み合わせ、その発言をきっかけにさらに議論を重ね、時系列毎の支援ニーズ(ボランティア活動)を具体的に整理していきして下さい。
- 最後は模造紙にまとめて下さい
 - 皆さんの共通認識をポストイットに書きとめ、それを模造紙にはっていきして下さい

(可能な限り具体的に)ワークシートに
イメージをまとめて下さい

	72時間	1週間	1か月	3か月	3か月以降
被害イメージ	—	—	—	—	—
復旧・復興活動のイメージ					
被災者のニーズ(=期待される役割)					
ボランティアを「仕掛ける」側に求められる役割(例:市町社協等)					
考えられる課題/その他					

課題2 (20分)

- ボランティアセンターの立ち上げ
 - ＝それぞれの市区町村ごとに考えてください
 - 発災から72時間後、地元の市区町でボランティア・センターを立ち上げられるか「A～D」で可能性を評価して下さい。あなた個人は被災していませんか？
 - 1週間後ならどうでしょうか。「A～D」で評価を
 - 代表と事務局長の候補名、設置場所(候補)を書き出して下さい。
- センターが機能を発揮するのはいつから？
 - 機能発揮:1日10件以上の活動調整(ニーズとシーズの受付⇒オリエンテーション⇒活動⇒報告・引き継ぎ・デブリーフィング)が可能かどうか
- センター外の活動は必要ですか？ できそう？

課題3 (10分)

- ここからは、書記の人がまとめて模造紙に書き出してください。
- 周辺市町との交通手段はどこまで確保されていますか？ 3日後および1週間後、主要な陸路、海路で、どこまで行き来が可能になっていると思われるか？ 行き来できる範囲、経路、移動手段、移動時間を地図を見ながら、整理して下さい。
- 小田原まではいつ、行くことができそうですか？ 静岡方面にはどうですか？ 伊豆半島は行けますか？
- 留意すべきことがら:
 - 禁マークについては対応可能とする。

西湘以外のグループ 課題4(25分)

- 西湘の広域支援拠点の立ち上げについて
- 3日後の時点で、小田原に置かれるボランティア広域支援拠点(東日本広域支援拠点・仮称)の立ち上げ支援はできそうですか？ 1週間後はどうですか？
 - 可能と思われるならば、そこに派遣する人数を書き出して下さい。県ネットは、西湘の広域応援拠点の代表、事務局長、会計担当(候補)の名前を書き出して下さい。
- 1週間後の時点で、静岡県内に数日以上まとまってスタッフを派遣することは可能ですか？
 - 可能と思われるならば、そこに派遣する人の名前を書き出して下さい。

西湘グループ 課題4

- 3日後の段階で、地元の支援と、広域応援の拠点運営の支援の両方に人を出せますか？ 県外からの地元支援を受け入れられますか？ リエゾンを受け入れられますか？
- 1週間後ではどうですか？ 拠点として必要な機能を果たすためになにが求められますか？
- 1カ月後には、どのような状況になっていると考えられますか？

ふりかえりのテーマ(西湘以外)

- わたしたちは、立ち上げられるだろうか？
- わたしたちは、わたしたちの市町の人材・資源を活かしきれているだろうか？
- わたしたちは、西湘地域や、西湘の拠点センターを支援できるだろうか？
- わたしたちは、静岡まで支援に行けるだろうか？

ふりかえりのテーマ(西湘)

- わたしたちは、立ち上げられるだろうか？
- わたしたちは、わたしたちの市町の人材・資源を活かしきれているだろうか？
- わたしたちは、静岡の応援拠点を支援できるだろうか？
- わたしたちは、静岡まで支援に行けるだろうか？

ふりかえりのテーマ(県本部チーム)

- わたしたちは、いつ立ち上げられるだろうか？
- わたしたちは、西湘地域に、どのような支援の手を差し伸べられるのだろうか？
- わたしたちは、県外からの支援を西湘地域につなげることができるだろうか？
- わたしたちは、静岡県にどのような支援の手を差し伸べられるのだろうか？

〇〇グループ

今後、さらに具体的に検討すべきことから

その具体的な検討のために必要な情報

「ラブレター」を送るべき相手とメッセージ

